令和３年度　第１回岡崎市農業振興ビジョン推進委員会
ユニバーサル農業推進部会　会議録

１　会議の日時及び場所
令和３年９月 24 日
岡崎市役所西庁舎　７０４号室

２　出席部会員の氏名
部会員（７名）

安藤　正巳	（あいち三河農業協同組合営農企画部営農企画課長）
加藤　智子	（あいち三河農業協同組合女性部部長）
小原　幹代	（岡崎女子短期大学准教授）
柴田　若江	（愛知県農村生活アドバイザー協会西三河支部ほほえみ会）
杉浦　ちかよ	（岡崎市農業振興ビジョン推進委員会委員（市民公募））
横本　拓	（愛知県立みあい特別支援学校学年主任）
藪本　真也	（社会福祉法人　愛恵協会管理者）

３　内　容
議題１　ユニバーサル農業の現状について
⑴　市民農園事業について

委員意見
・市民農園を今後も増やす予定はあるか。
・市の南方面の住宅地の中央の辺りに、草が生い茂っている場所がある。水道もあるようなので、市民農園を開園することができないか。

事務局
・２年程前に地主の方から市民農園の開園の相談があった土地のように思われるが、その後地主の方から相談の取り下げがあった。また一度連絡をしてみる。
・市民農園は、農地をご提供いただけるということが必要で、市民農園にされたいという話があれば、市は積極的に支援をしていきたい。市としても市民農園について、ＰＲを重ねて少しでも開園数を増やしていきたく、ご協力いただける農家があればありがたい。

⑵　フードロス削減に向けて

委員意見

・他の部会員が、「子ども食堂」へ栽培しすぎた農産物等を寄付する活動を農遊館等で始められたことを聞いた。影響されて、あいち三河農業協同組合女性部でも何かしたい思い、「子ども食堂」へ農産物寄贈の活動を始めた。

・コロナ禍の中、何かの形で社会貢献できればと思い、野菜をコンテナに３杯を寄贈すること等ができた時もあった。

・問題として、季節によって野菜の収穫が多い時と、少ない時がある。あいち三河農業協同組合は、生産者としても農産物を出しており、野菜を売りたいという気持ちもあり、寄付が一過性にならないようにしたい。何か補助等があればとも思う。

・みあい特別支援学校では、学生が育てた野菜を現在学校内で頒布しているが、「子ども食堂」への寄贈にも興味をもった。「子ども食堂」へ寄贈等の活動につながっていけば、地域の方たちとつながりもでき、学校での野菜栽培も有意義なものとなる。

⑶農福連携について

委員意見

・みあい特別支援学校として、農福連携を拡大していきたい。

・市民の方々は、特別支援学校について、わからない方が多いと思う。障がいをもった子が、どれだけ活躍できるか知ってほしい。学生が社会に出れるように、本校についてＰＲしたい。

・みあい特別支援学校敷地内に畑が無いため、現在近くの土地を借りて農作業をしている。より広い畑で農作業をしたいため、他の農地へも行きたいが、多くの学生を車に乗せて移動することが困難である。遠くても送迎の車等移動手段があれば、行くことはできる。市やＪＡで送迎を手伝ってもらうことはできないか。

・愛恵協会でも、畑への移動手段が課題となっている。最近は、担い手がいなくなった農地の活用がメインの活動となっており、高齢のため自分の田や畑を使って良いと話してくれる農家の方もいるが、車を使用しないといけない場所が多い。車では乗れる人数も限られていて、難しい。徒歩圏内であれば、毎日利用者の方も行くことが可能である。

・スクールバスの使用や運転代行サービスの利用はどうか？

・スクールバスについては、使用目的が限られていると思われるため、難しいが確認したい。

・みあい特別支援学校では、農家の方が売り物にならない花を業者が買い取り、本校へ届けてもらい、学生がフラワーアレンジメントを製作する取り組みを授業で行っている。フラワーアレンジメントの作成方法を学生へ説明すると、センス良く作ってくれる。製作したものは、学校内で頒布している。
・本校の卒業生の進路先で、現在福祉施設に行き農業をする者はいるが、農家に就職している者はいない。一般就労では、会社に障がい者雇用枠があることはあるが、会社から障がい者に求めるレベルが高いのが事実である。機械を使う作業よりも、農業は労働で可能な作業が多いため、就職先の幅を広げたく本校でも取り組みを始めている。
・農家への就労について、コロナ禍の関係もあり、農家のところへ就職したいという相談を他でも受けるが、現在あまり受入れ可能な農家がない。
・農家の方は個人でやられているところが多いため、就業規則や保険制度の必要性等もあり、障がい者、健常者関係なく就職としてのハードルが高い。個人ではなく、法人、経営主としての農家の方が増えてくれば、雇用も増えるかもしれない。
・期間作物でこの期間人手不足という場合等、臨時的な雇用求人の依頼ならばあるので、まず臨時的なところから始めてみるのも良いのかもしれない。
・農福連携を受け入れてくれる農家の方に補助金等もあれば良いと思う。
・学生が卒業後に農家でひとり立ちは難しいとは思う。一般就労も誰か支援者が横にいれば、作業ができるが、いないとできないため、雇用されないことが現状である。だが、施設就労と一般就労と賃金の差が大きく、農業を介して賃金等の面が向上すると良い。

議題２　農福連携の今後の予定について

委員意見
・障がい者の理解が周りで必要である。障がい者の方も作業のコツを掴むと素晴らしい能力を発揮する。好きな作業の場を見つけられる機会を作ることが重要ではないかと思う。実習や短期体験等ができる場があると良い。
・農家の方に実際の生徒たちの様子を知ってほしい。農家の方のところへ実習へも行かせていただきたいし、みあい特別支援学校へ農家の方が見学にもぜひ来ていただきたい。
・身近に障がい者の方がいないと、どう接して良いかわからない。もっと知らなければいけないと思う。

・ぜひ学校へ行って、様子をみさせてほしい。